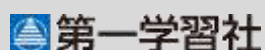


大学入学共通テストについて

北海道札幌東陵高等学校教諭 佐藤豊記



2021 年 1 月，初めての大学入試共通テストが実施された。試行調査から出題形式がどのように変化した，それに対応して授業展開や生徒の学習をどのような方向で改善すべきかについて，考えてみたい。

1 問題形式の概要

「思考力・判断力・表現力」を問うことに重点を移した大学入学共通テストは，過去 2 回実施された試行調査問題で出題された新しい出題形式が本採用され，従来型の「知識・理解」を問う大学入試センター試験からは大きく変化した。まず，問題文がリード文形式から，会話文やメモをもとにした資料形式になった。極端なことをいえば，センター試験はリード文を読まなくても解答が出来る場合があったが，共通テストでは，与えられた問題文を注意深く読み込まなくては，正答にたどり着くことは難しい。また，選択肢もセンター試験の 4 択中心から，共通テストでは 4 択，5 択，6 択，8 択，9 択という幅広いものに変化し，2020 年のセンター試験・本試と比較して 4 択問題数は半減した。さらに，資料問題も複数の資料から丁寧に読み取る，いわゆる読解力が必要とされる問題が出題されている。結果的に，問題数も絞られて，2020 年のセンター現代社会の大問 5 問・小問 36 問から，共通テストでは大問 5 問・小問 30 問の出題となった。以下の表を確認してもらいたい。

■ 問題数の比較

	実施年月	大問数	小問数
共通テスト試行調査（第 1 回）	2017 年 11 月	5 問	23
共通テスト試行調査（第 2 回）	2018 年 11 月	6 問	33
センター試験（2020 年本試）	2020 年 1 月	6 問	36
共通テスト（2021 年本試）	2021 年 1 月	5 問	30

■ 問題数の選択肢数

	4 択	5 択	6 択	8 択	9 択
センター試験（2020 年本試）	30 問	なし	2 問	4 問	なし
共通テスト（2021 年本試）	15 問	1 問	7 問	6 問	1 問

2 大問分析

■ 第 1 問 民主主義の原理とそのあり方（26 点 小問 8 問）

現代社会の授業を通じて生徒が学習した内容という場面設定で問題が進行する。

- 問 1 カード問題。与えられた中江兆民、福沢諭吉、夏目漱石の著作資料から、中江兆民と福沢諭吉の組み合わせを選択する。福沢の「独立」、夏目の「外発的開化」、中江の「恢復的民権」というキーワードと文章をしっかりと読むことが出来れば選択可能。
- 問 2 カード問題。生徒がまとめた三権分立のカードと、モンテスキューの権力分立論の特徴をまとめたカードとの内容の一致、不一致を選択する。正答は④の「合致しているものはない」であるが、一見するとイと(2)の内容が合致するようにも見える。イの「常設の機関が担う」、(2)の「常設の機関に担わせてはならない」が異なることに注意。
- 問 3 カード問題。モンテスキューとロックの権力分立論の相違点と中国の政治体制についての問い。理論から現代の社会的事象を捉える力が問われている。
- 問 4 従来型の 4 択正文選択。日本の司法制度に関する基礎的知識があれば比較的解答は容易であろう。
- 問 5 従来型の 4 択正文選択。刑事裁判に関わる法制度や裁判の手続きに関する問題。思考の前提となる用語の正しい理解が求められている。
- 問 6 従来型の 4 択正文選択。民事裁判に関する問題。契約自由の原則、無過失責任の原則、裁判外紛争解決手続法（ADR 法）、裁判所の和解勧告などについての正しい理解が求められる。
- 問 7 従来型の 4 択正文選択。行政のあり方に関する問題。行政手続法、行政裁判所、委任立法、副大臣と政務次官などの用語の正しい理解が必要であった。
- 問 8 政党 X と政党 Y との政策の違いについて、図に対立軸を示して視覚化している。二大政党制が単独政権と、多党制が連立政権と親和性が高いことを理解していれば、保守かリベラルかの判断は政策から判断できる。

■ 第 2 問 持続可能な開発（16 点 小問 5 問）

授業のスライドで紹介された環境活動家ワンガリ・マータイの“MOTTAINAI”にヒントを得た 3 人の生徒の発表にかかわって持続可能な社会に関する問題が展開される。

- 問 1 循環型社会の推進に向けて、3R の取り組みを優先順位の高い方から並べ変える問題。廃棄物の量を減らすための取り組みのリデュース、そのまま再利用するリユース、回収したものを原料に新たに作成するリサイクルの順番が適切。
- 問 2 3 つの建物から 1 つだけ保存する建物を住民アンケートで意思決定する際の、決定方法による結果の違いについて思考力を測る問題。経済学の選考、あるいは社会的選択理論の考え方に通じる。数

学的な思考が必要である。

問 3 問 2 に関連し、実際の意思決定の方法についての知識を問う問題。アメリカ連邦議会の大統領拒否権発動後の再可決、日本の憲法改正の国民投票、地方自治での首長のリコール必要署名数について問われている。

問 4 人間と自然とのつながりに関する概念の説明から、その概念が示す用語を選択させる問題。宇宙船地球号と生物多様性条約の意味を選ぶ。

問 5 実際の制度や条約の中から、国による相違を考慮した制度の内容に対する正誤問題。環境条約の「共通だが差異のある責任」、核拡散防止条約の「非核兵器国」、発展途上国に対する「一般特惠関税制度」について出題された。単純な単語の理解だけではなく、制度や条約の背景にある問題を深く理解しておく必要がある。

■ 第 3 問 市場経済と政府の役割 (27 点 小問 8 問)

現代社会の授業にかかわる経済分野の 6 つの会話文を読んで、それぞれの問題に答える。

問 1 会話文 I から、日本の 1980 年代の経済成長率（実質 GDP に基づく）の折れ線グラフを 5 つの中から選択させる問題。日本の 1980 年代は安定成長から 1985 年のプラザ合意、円高不況、後半のバブル経済を迎える時期。低成長時代ながらも全体的に右肩上がりになっていくものを選択できるかがポイントとなる。

問 2 会話文 II から、日本の GDP に含まれるものを選ぶ問題。GDP（国内総生産）の意味が理解出来ていれば、容易に解答ができるであろう。

問 3 会話文 III から、国際貿易に関する正文を選択する従来型の問題。保護貿易の手段として輸入品検品の厳格化を選択することができるかがポイント。

問 4 会話文 IV から、景気変動と景気の安定化に関する正文を選択する従来型の問題。コンドラチェフの波、ジュグラーの波、裁量的財政政策、ビルトイン・スタビライザーの知識が必要である。

問 5 会話文 V から、会話文中に入る適切な発言の組合せ問題。政府の役割の 1 つである公共財の提供の意義について問うている。公共財の「非排除性」が利益を求める企業活動とは馴染まないものであることが理解出来れば正答にたどり着く。

問 6 会話文 V で説明されていた「非競争性」と「非排除性」という概念から、具体例を表に当てはめることができるか。「岬の灯台」や、「ケーブルテレビの有料チャンネル」は容易に分類できるが、「自由に釣りをしてもよい小さな池にいる魚」で戸惑うかも知れない。

問 7 会話文 VI から、労働市場における需要と供給についての組み合わせ問題。この問題は概念ではなく、現在の日本の社会を具体例にしている。少子高齢化にともなう労働人口の減少、無人コンビニ、女性労働が取り上げられている。

問 8 会話文 VI に関連して、日本の労働法制についての正文を選択する従来型の問題。労働基準法から労働基準監督署が設置されていることを理解しているかが、ポイントとなる。

■ 第 4 問 現代社会と青年 (19 点 小問 6 問)

アルファベットの文字を使用したカードゲームで勉強を進めていく設定。長めの会話文を読んで関連事項の設題に答える形式になる。

- 問1 会話文の中での説明にある空欄ア・イ・ウに入る適切な語句を、並べたカードから選択する問題。
ICT, IPS は選択できるが、ウの生命倫理での SOL がやや難しい。QOL を選択してしまう可能性もあるが、文章をしっかりと読むと、明らかに QOL ではないので、消去法での選択も可能である。
- 問2 防衛機制について、キツネとぶどうの寓話の説明文からの出題。説明文に入る言葉の組み合わせを選択する。反動形成、抑圧、置き換えの意味が理解出来れば解ける知識問題。
- 問3 会話文中から、2009 年の臓器移植法の改正によって、ドナーが臓器移植提供について有効な意思表示を示していない場合の「家族承認の有・無」によって臓器提供はどうかと問われた。家族の承認があれば、年齢に関わりなく臓器提供が可能であることが理解できていれば、条件設定があっても解けたであろう。
- 問4 社会の多様性に対応して、日本の法がどのように整備されてきたのかについて誤文選択させる従来型の問題。男女共同参画社会基本法、ヘイトスピーチ解消法、育児・介護休業法、障害者基本法の内容について問われた。障害者雇用の法定雇用率は障害者雇用促進法の規定であることに注意が必要であった。
- 問5 青年期に関する従来型の正文4択知識問題。ライフサイクル論、心理的離乳、境界人（マージナルマン）、心理・社会的モラトリアムなどの用語を正しく理解しているかが問われた。
- 問6 国際社会分野の用語についての従来型の誤文4択の知識問題。APEC, WTO, BRICS, IPCC について問われた。

■ 第5問 買い物弱者問題（12点 小問3問）

生徒の探究学習の課題として「食料品の買い物で不便や苦勞を感じている人の割合と構成比」の資料が与えられ、それぞれの観点から設問に答える形式。読解力が問われる問題であり、資料を読み込むのに時間を要する。

- 問1 資料から読み取れることの4択正文選択問題。大都市圏のA地域と山村地帯のB地域の2つの地域で資料を比較しながら精読する必要がある。根気よく資料を読むことで、正答にたどり着ける。
- 問2 会話文Ⅰから、登場人物が資料のどの部分を根拠として発言しているのかを考える問題。設問に関連して「現在の地域での付き合いの程度」、「食料品の買い物で不便や苦勞を感じている人の割合と構成比」の2つの資料が追加され、4択正文選択問題であるが難しい。
- 問3 会話文Ⅱから、文中の3人の発言が、政治的に異なる主張P（個人の自由を最大限に尊重し、再分配に否定的）とQ（「公正としての正義」を原理として再分配重視）のどちら側の立場に近いかを選択する問題。具体的な社会事象から概念を考える力が問われた。

③ 今後の授業展開を考える

今回の共通テスト「現代社会」の問題では、長年親しんできたリード文・下線部型の4択中心の出題ではなくなり、正確な知識を必要とする問題に加え、日常的な生活の中にある社会的課題が取り上げられ、それを解決していくにはどのような考え方や見方があるのかを問うものが見られた。「知識」の詰め込みと「キーワード」だけで正答にたどりつくことは難しい。従来から私たち教員が授業で（とりあえ

ずの) 目標としてきた「用語や制度などの基礎的な知識が正しく理解できる」ことが重要であることには変わりはないが、加えて、概念や理論を活用して現実の社会的事象等の意味や意義を捉えることが出来ることや、社会的事象を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を理由や根拠に基づいてまとめることが出来ること、そして、社会的課題の解決に向けて主体的に考えることが出来ることなどが求められている。知識の習得が「始まり」・知ったことが「ゴール」から、知ったことが「スタート」となる考え方であり、「それをどう活用するのか」という難しい問題である。まさに、学習指導要領で示されている見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連づけて理解を深め、情報共有で考えを形成し、問題を見いだして解決策を考える「深い学び」が求められている。端的に言えば、貧困問題や格差社会、差別、少子高齢化や人口減少社会、地球環境問題といった「社会問題の解決策の検討」が主体的に出来るような生徒たちを育てていくことである。理論や理念から、よりよい社会のあり方について、「幸福、正義、公正」といった視点を踏まえて、現実の社会を冷静に見ることが出来る人間を育てていくことである。そのためには社会の現状をしっかりと認識し、問題意識を持った上で、「私ごと」として考えられるか否かが鍵となる。青年期や思想家の考えは悩み多き高校生にとって、「私ごと」として身近に感じることもできるかも知れないが、社会の問題を「私ごと」として考えることは容易ではない。私たちの授業を見直していく必要もある。例えば、「選挙制度にはどのようなものがあるか」、「日本の社会保障制度にはどのようなものがあるか」、「青年期の特徴はどのようなものだろうか」という漠然とした問いから、「どのような選挙制度ならば、国民の意見が政治に反映されるようになるだろうか」、「どのような社会保障制度ならば、私たちは安心して生活することができるだろうか」、「私たち自身が青年期だと感じるのはどのような時だろうか」というように、生徒が問題の対象に含まれているという意識を持たせて「私たちの問題」として学びを進めていくことが重要ではないだろうか。すると、必然的に教員が説明に終始するのではなく、生徒たち自身がお互いに自分の意見を出し合う流れとなる。生徒には個性があるので、必ずしも対話でなくても、話すのが不得意な場合は短い感想でもよいかも知れない。しかし、一旦自分で意見を持ったならば、それを他の人に伝え、また他の人がどのように考えたのかを聞きたくなる。そして、(生徒の個性に合わせて) 私たちが工夫した話し合いの場で、また新たな気づき生まれ、それぞれ生徒は考えを深めていく。やがて、いつの日かその問題と向き合った時に解決できるよう自分の考えを持ちながら大人へと成長していく、このような授業のスタイルができれば、今回の共通テストの新しい傾向の問題と向き合っても、対応出来るのではないだろうか。

民主主義社会は、たとえ時間がかかっても意見の相違があっても理解し合えるまで、粘り強く話し合うことが必要である。先人たちは、失望や絶望を感じることもあっても、諦めずに新しい時代を切り開いてきた。忘れてはならないのは、私たちが生徒に求めている力や内容は、私たち教員＝おとな側にも当然求められていることである。今回の共通テストは、私たち教員の授業や考え方をブラッシュアップしてくれる好機と捉えることができる。私も前向きに授業改革にチャレンジしたいと考えている。

本分析資料のほか、他教科・他科目の分析資料(PDF)もダウンロードできます。



 **第一学習社**

広島本社

733-8521 広島市西区横川新町 7-14

TEL 082-234-6800